

2023 年度 高温ガス炉プラント研究会

第 6 回運営会議

議事録

高温ガス炉プラント研究会事務局

(株)桜門イノベーションリサーチ

1. 日時 : 2024 年 2 月 21 日 (水) 16:00~17:00
2. 場所 : リロの会議室 ForumS 5 東洋海事ビル 地下 1 階 会議室 B
東京都港区新橋 3-2-5
3. 運営会議メンバー (敬称略)
会 長 : 岡本 孝司 (東京大学)
会長代理 : 山本 一彦 (学術著作権協会)
会 員 : 小林 智弘 (鹿島建設)、小杉 宗 (清水建設)、持丸 雅典 (東芝エネルギーシステムズ)、石垣 嘉信 (富士電機)、谷平 正典 (三菱重工業)
(欠席) 諸菱 亮太 (大林組)
T A : 都筑 和泰 (エネルギー総合工学研究所)
オブザーバー : 濱本 真平 (Blossom Energy)、西村 洋亮 (東京大学大学院)
事務局 : 石塚 冬樹 (桜門イノベーションリサーチ)
4. 配付資料
運営 6-0 2023 年度 高温ガス炉プラント研究会 第 6 回運営会議 議事次第
運営 6-1 ニュースレター No. 23 (案)
運営 6-2 報告書目次 (案)
運営 6-3 事務手続き及び今後のスケジュール
参考資料 2023 年度 第 5 回運営会議 議事録

5. 議事概要

(1) 本年度のまとめ（事務局）

①ニュースレターNo. 23（案）、運営 6-1

一昨年度から、第 1 章は高温ガス炉のニーズと開発状況、第 2 章は国内外動向調査の 2 章構成としている。今回、第 1 章は JAEA のプレス発表をもとにしてアップデート、第 2 章は本年度調査報告に差替えた。

→承認

②報告書目次（案）、運営 6-2

例年の構成を踏襲した資料集で、会議資料などを集積している。

→承認

③事務手続き及び今後のスケジュール、運営 6-3

・ 2023 年度決算書（案）

概ね予算どおり。次年度は会員増により、国内外調査支出を増額する。他には定期講演会の支出が大きい。

→承認

・ 2023 年度分請求書、2024 年度契約・国内外動向調査業務発注の手続きの進め方について説明。

・ 今後のスケジュール

2024 年度第 1 回運営会議：5 月 9 日（木） 8:30～10:00（予定）

【質疑応答】

・ 国内外動向調査は、本年度と同様、エネルギー総合研究所にお願いできるか。

→同じ体制で取り組む見込み。調査テーマ対象として原子力学会に加え、国際学会のどれを取るか検討中。ICONE はチェコ・プラハで開催され、現地に行く予定。

・ 現地に行かない学会もプロシーディングを入手できる。

→2024 年度の第 1 回運営会議にて調査計画（案）を提示する。

(2) 新規加入申込について他

【説明】

・ 新規加入申込みのあった A 社については、どんな会社か、どういう目的で入会したのか、どのような活動をしているかなど定型的な質問をしている段階。

・ 委員会時の立ち話で、JAEA は本研究会へのサポート強化を図る余地があるとの感触を受けた。どのような形態がよいか。

【質疑応答】

・ A 社は海外を拠点としているようで、外為法は要注意。海外資本が入っているのであれば問題。

→主要株主や資本構成も含めて質問している。その他会社の実態がほとんど見えておらず、設立経緯を含めて慎重に調べる必要がある。

→企業秘密の限界があるにせよ、入会希望するなら、受け入れ側として納得できる説明をしてもらわなければならない。

- ・ JAEA からのサポート強化はありがたいが、国の機関が会員として加入することで民間の研究会という性格が変わってしまうことは好ましくないのではないかな。
- ・ 契約や金銭的な関係は作らず、運営会議へのオブザーバー出席を要請するのがよいのでは。JAEA との会話の中でもその方向で検討していただくようお話しした。
(追記) JAEA より応諾の返事があり、坂場室長が運営会議オブザーバーとして参加されることとなった。
- ・ 関西電力が研究会への興味を持っているようだ。本研究会は一時期、有料会員 3 社という解散をも考えざるを得ない苦しい時期を何とかしのいできた。高温ガス炉への追い風に乗って電力会社に戻ってきてもらい、会員 10 社程度になれば活動範囲を広げることができる。会員各位も電力会社と機会があれば話をしていただきたい。

(3) 2024 年度の進め方について

①大学との連携について

【質疑応答】

- ・ 定期講演会時のようなハイブリッド形式で、全国の学生が出てもらう案が考えられる。
→確かに東京開催だと、地方からの参加は難しい。
→毎年実施しているワークショップで旅費を支給している事例はある。
→かなりの予算が必要となる。
→新規会員加入が増えれば予算配分が可能だが、現状では見通せない。
→ハイブリッドでは学生にとってメリットがないのでは。やはりコミュニケーションをとるには対面でないと。
→学会で集まる機会を利用する方法もある。その場合は大学の費用でできる。

②Blossom Energy 濱本氏（次年度より会員加入）のコメント

- ・ スタートアップとしてはこの事業でビジネスを創造していかないと生きていけない。今海外にアプローチしているが、早期に話を進めて皆さんと共有していきたい。
- ・ A 社は海外に拠点を置き、日本はサテライトという位置付けなので当社とは競合しないという説明があったがよく理解できなかった。A 社 CEO は元々当社の業務委託先で、スタートアップへのコミットに着目していて他の社にもコミットしつつ、比較的先行している当社にもアプローチした感じであった。実際の活動はよくわからない。

(4) 2023 年度閉会挨拶（山本会長代理）

- ・ 前述のとおり 3 社体制になったときは事務局石塚氏と研究会をたたもうかということを実際に話し、毎年のように今年もなんとか乗り切れたねということ話をしていた。しかし、こういう研究会はいったんやめると二度と立ち上げることは難しく、細々と毎年続けてきた。
- ・ 次年度からは 7 社確定でプラスアルファがどうかという段階となり、薄氷からちょっと氷が厚くなったということで、少し安心して進められそうな段階になった。私も石塚氏も結構な年になったが、あと 3 年ぐらひは頑張らざるを得ないかと思っている。
- ・ 安先生が立ち上げられてから 40 年近くにもなる。3.11 以降本当に薄氷を踏む思いでやってきたが、会員数が増えてきたということもあり、これからさらに発展させてい

ければと思っている。是非若い方たちに頑張ってもらい、西村氏のような感動を味わってほしいと思う。

6. 今後のスケジュール（再掲）

<2024 年度 第 1 回会議（ZOOM）>

日時：2024 年 5 月 9 日（木）8:30～10:00

議事：2024 年度活動計画、調査計画等

-以上-